

令和6年6月3日

報道発表資料  
(大学同時)



公立大学法人京都市立芸術大学  
担当：共創テラス・連携推進課  
電話：075-585-2006

京都市文化市民局  
取次：文化芸術都市推進室文化芸術企画課  
電話：075-222-3128

## 京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター 令和6年度前期 「伝音セミナー ―日本の希少音楽資源にふれる―」

この度、京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センターでは、「伝音セミナー ―日本の希少音楽資源にふれる―」を開催します。

本講座は、日本伝統音楽研究センターの教員や研究員が講師となり、SPレコード等に残された貴重な演奏音源などを紹介する無料の講座です。

日本の伝統音楽に触れるのは初めてという方も、是非この機会に御参加ください。



過年度（平成31年開催時）の様子

- 1 開催日程 第一回：令和6年6月20日（木）午後2時45分～4時15分  
第二回：令和6年7月25日（木）午後2時45分～4時15分  
第三回：令和6年8月24日（土）午後1時～2時30分  
第四回：令和6年9月26日（木）午後2時45分～4時15分
- 2 場 所 京都市立芸術大学 伝音セミナールーム  
(〒600-8601 京都市下京区下之町57-1 A棟1階)
- 3 定 員 各回50名
- 4 講座内容等 別紙のとおり
- 5 申 込 不要
- 6 受講料 無料
- 7 問合せ先 京都市立芸術大学事務局 共創テラス・連携推進課  
電話 075-585-2006  
Eメール public@kcua.ac.jp
- 8 主 催 京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター



KYOTO CITY UNIVERSITY OF ARTS  
RESEARCH INSTITUTE  
FOR JAPANESE TRADITIONAL MUSIC

京都市立芸術大学  
Kyoto City University of Arts



京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター

令和6年度 前期

# 伝音セミナー

—日本の希少音楽資源にふれる—

「日本伝統音楽の講座に参加するのは初めて」という方にも、気軽に受講いただけるセミナーです。

聴講無料・申込不要／定員 各回50名



会場

京都市立芸術大学  
伝音セミナールーム

京都市下京区下之町57-1（A棟1階）

- 地下鉄烏丸線・JR各線・近鉄京都線「京都」駅下車 徒歩6分
- 京阪電車「七条」駅下車 徒歩10分
- 市バス 4・7・16・81・205・南5号系統「塩小路高倉・京都市立芸術大学前」下車すぐ

構内に駐車場はございません。  
各種公共交通機関をご利用のうえご来場ください。

## 第一回 6月20日(木) 能楽の「呂中干」形式をさかのぼる

14:45～16:15

講師：藤田 隆則 日本伝統音楽研究センター教授

能楽の中には、主人公が、謡ではなく笛の伴奏で舞う部分があります。代表的なものに「序ノ舞、神舞、男舞、中ノ舞、早舞」がありますが、これらはいずれも「呂中干」形式、つまり基本となる旋律型(地)が「中、干、中、呂」の四句で構成される形式をもっています。「呂中干」という呼称の由来やその起源も、これまでほとんど研究されていません。ひとつの古い資料を手掛かりに、起源をたずねてみようと思います。

## 第二回 7月25日(木) 江戸期の流行歌を歌ってみよう

14:45～16:15

—常磐津への摂取例から—

講師：常磐津 若音太夫（竹内 有一）日本伝統音楽研究センター教授

江戸時代、人々が親しみ口ずさんでいたであろう様々な流行歌は、常磐津節にも摂取されています。いくつかの事例について、歌の由来や引用された理由を紐解きながら、実際に三味線の音ののって声に出してみることで、その特徴をつかみます。

## 第三回 8月24日(土) 地方に根付いた雅楽のありよう

13:00～14:30

—伝承の分化と音楽スタイルの進化—

講師：田 鍬 智志 日本伝統音楽研究センター准教授  
上野 正章 日本伝統音楽研究センター共同研究員

動植物が、同種であっても地域ごとに少しずつ異なる特徴がそなわっているように、音楽もまた、ある土地に根付き、そして長い歳月にわたって伝承されると、それぞれの土地固有の音楽的特徴があらわれてきます。令和3年度より、そのような雅楽伝承の例を調査してきました\*。今回は、これまでの調査のなかから、興味深い事例を、映像交えながら紹介します。

※ 共同研究「様式分化をとげた雅楽を対象とする伝承実態調査」中間報告

## 第四回 9月26日(木) フリー・リード楽器を知る:笙から生まれた楽器たち

14:45～16:15

講師：齋藤 桂 日本伝統音楽研究センター准教授

中国の笙の仕組みをヒントに、19世紀にヨーロッパでハーモニカやアコーディオンが誕生しました。自由に動くリードを音数分そろえたこれらの楽器はフリー・リード楽器と呼ばれます。発音が容易なこともあり、これらの楽器は世界各地の民俗音楽に取り込まれて、独自の音楽的発展を遂げます。本セミナーでは笙から日本を含む世界各地のアコーディオンまで、フリー・リード楽器の展開を紹介します。

主 催 | 京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター

問合せ先 | 京都市立芸術大学事務局 共創テラス・連携推進課 京都市下京区下之町57-1

TEL 075-585-2006 (平日 午前8時30分～午後5時15分) E-mail public@kcua.ac.jp 大学ウェブサイト <https://kcua.ac.jp/>